



岡山大学 ナノバイオ標的医療の 融合的創出拠点の形成

ICONT (Innovation Center Okayama for Nanobio-targeted Therapy)

岡大 医学・医療の最前線 22

がん医療革新へアジア連携

がんに対する革新的医療の創造を中心に医学・医療の最前線についてリリースで解説してきます。ここ数回は、本年6月に岡山で開催した第56回日本化学療法学会総会の併催事業として6月5〜8日まで実施した「秦佐八郎博士サルバルサン探索99年記念展〈魔法の弾丸99年

の歩み〜岡山市デジタルミュージアム」に関連した話題をお届けしました。今回は、6月8日に同じく併催事業として開催した「アジアスタディ岡山'08」イノベーション拠点の形成と国際連携」についてお話しします。今までに何度かお話ししてきたように、現在、岡山大

は文部科学省が平成18(2006)年度から開始した「先端融合領域イノベーション」創出拠点の形成」事業において、「ナノバイオ標的医療の融合的創出拠点(ICONT)の形成」を協働企業7社とともに推進しています。具体的には、岡山大が日本でトップの実績を誇る固形がんに対する遺伝子治療臨床研究を基盤技術として、岡山大学のナノバイオテクノロジーと協働企業の

アジアスタディ岡山'08 ～イノベーション拠点の形成と国際連携～

開催日時：平成20年6月8日(日) 10時30分～16時45分
開催場所：岡山コンベンションセンター
主催者：岡山大学ナノバイオ標的医療イノベーションセンター長 公文 裕巳
岡山大学EPS寄附講座「新医療創造MOT講座」客員教授 藤 浩

招聘者：文部科学省 科学技術・学術政策局 戦略官 生川 浩史 氏
経済産業省 中国経済産業局 局長 杉田 定大 氏
北京大学泌尿器科教授・中国泌尿器科学会理事長 那 彦群 氏
韓国前立腺バンク代表・韓国カトリック医科大学 Ji Youl LEE 氏
北京大学腫瘍病院 主任教授 李 曉 氏
シンガポール総合病院 主任部長 CHENG Wai Sam, Christopher 氏
厚生労働省 医政局 佐藤 大作 氏
早稲田大学理工学術院 教授 浅野 茂隆 氏
川崎医療福祉大学 教授 梶谷 文彦 氏
(挨拶・講演等順)

言語：日本語・英語同時通訳 参加者：140名



新医療創造における連携を目指して開催された「アジアスタディ岡山'08」

第1回目は昨年9月18日に「アジアスタディ岡山'07」新医療創造における連携を目的として「〜と題して開催しましたが、その内容については本シリーズの第12回「遺伝子治療でアジア連携」として紹介しました。第2回目は、なる今回は、「アジア人のがん体質に関する遺伝子多型(SNP)共



公文 裕巳 (岡山大学ナノバイオ標的医療イノベーションセンター長 泌尿器腫瘍学准教授)

同研究」と「免疫賦活遺伝子(IL-12)治療の国際共同臨床研究」について、韓国、中国、シンガポールの代表的医療機関と共同して実施するにあたり、解決すべき諸課題を具体的に討議することを目的に開催しました。今回の企画は、昨年の第1回の会議をもとに計画していたものですが、研究題目「アジア人のがん体質と遺伝子治療共同臨床研究」として、今年度から公衆募があつた先端技術創出国際共同研究(科学技術振興調整費)平成20(23年)の委託事業にタイミングよく採択されました。そのこともあり、中国泌尿器科学会の那彦群理事長、北京大学腫瘍病院の季鳴教授、シンガポール総合病院泌尿器科のクリストファー・チェン主任部長、韓国前立腺バンクのリー・ジヨル代表のほか、文部科学省、経済産業省、厚生労働省に加えて中国大使館の劉志貴一等書記官、韓国大使館の許裁埔科学官をはじめ、海外を含めて多数のゲストの方々に参加をいただき、実質的なアジア連携の開始となりました。東アジア諸国が「人種、遺伝的形質、文化、習慣が類似して